

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009 ～ 2010

課題番号：21820009

研究課題名（和文） 現代中国語共通語における二重他動構文の類型論的研究

研究課題名（英文） The research of translinguistic typology on ditransitive constructions in modern Chinese

研究代表者

盧 建 （ルウ ケン）

東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：80540872

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域間の構文の違いに注目し、現代中国語の二重他動構文が一つの言語の歴史の中で生じたものなのか、それとも言語接触の影響によって生まれたものなのかという問題を掲げ、その問いへの解答を模索するとともに、中国語の歴史に対する再考を提唱するものである。研究方法としては、二重の他動関係を表す複数の構文（二重他動構文）を、「古代中国語－近代中国語－現代中国語」という通時的な座標軸と「西北方言－共通語（北京語）－東南方言」という共時的な座標軸から成る二次元の枠に位置づけ、二重他動構文の変遷とその動機づけを考察し、さらに言語類型論を適用することで、現代中国語の二重他動構文の構文的意味を分析する。本研究の独創性と意義については、以下のようになると考えている。

- ① 現代中国語の二重他動構文を、初めて、「古代中国語－近代中国語－現代中国語」という時間的な座標軸と「西北方言－共通語（北京方言）－東南方言」という空間的な座標軸の両方から成る二次元の枠に位置づけ、体系的な観察と考察を行った。そして、中国語二重他動構文自身の歴史的な変遷経路と軌跡を分析し、さらに、言語の接触と浸透が中国語二重他動構文に与えた影響を明らかにし、二重他動構文を「同一の源」をもつ構文と「異なる源」をもつ構文に分けた。
- ② 中国語内部で与格受取手が直接目的語の後ろから直接目的語の前に移り、さらに動詞の前に移ってきたと見なす先行研究に異議を唱え、地域を越えた中国語は同質の体系ではないことを主張した。文法の変遷は、必ずしも同質言語内で起こるわけではなく、そこには「構文の借用」、「構文の影響」という問題が存在しており、これまでの「単線的変化」理論の下で構築された変化のプロセスには再考の余地があることを明らかにした。
- ③ 中国語には三千年以上の文献史、豊富な方言および少数民族の言語がある。また、唐代以後契丹、女真、蒙古などの各民族が前後して中原に入ることによって、語族間の接触はさらに頻繁になり、「中国語の非『中国語』化」をいっそう強めた。本論文は中国語がもつ複雑性を明らかにし、現代中国語の構文に対する通時的・地域横断的な考察や語源解析の参考になる分析事例を提供しているように思われる。

研究成果の概要（英文）：This study examines regional differences in syntactic structure of modern Chinese. It asks whether patterns of ditransitive verbs in contemporary Chinese evolved from within the Chinese language, or are the result of language contact. In order to address this question, the study reconsiders the history of the Chinese language. In addition, the research method involved plotting multiple

representations of ditransitive structures in a two-dimensional design with diachronic data from Ancient Chinese, Modern Chinese, and Contemporary Chinese on one axis and synchronic data from Northwestern dialects, Standard Chinese (Beijing Mandarin), and Southeastern dialects on the other axis. Furthermore, by applying typological methods the study analyzes the meaning and function of ditransitive syntax in contemporary Chinese sentences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	730,000	219,000	949,000
2010年度	510,000	153,000	663,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,240,000	372,000	1,612,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学，中国語学

キーワード：現代中国語 二重他動構文 類型論

1. 研究開始当初の背景

①これまでの研究は主に形式に注目しながら二重目的語構文を考察しており、二重目的語構文の範囲を形式の面から定めることを考察の焦点としているものが多かった。

②また、構文の生成と変遷に関するこれまでの研究は「異源（異なるみなもと）の影響・浸透」という視点を欠いており、「中国語は純粋な言語体系をもっている」という理念が中国語の構文の変遷を解釈する上での基本前提となっている。しかし筆者は自ら行った調査の結果から、このような基本前提が必ずしも正しいとは限らないと考えるに至った。

2. 研究の目的

本研究では、通時的な考察と共時的（地理的）な考察によって、先行研究に異議を唱え、地域を越えた中国語は同質の体系ではないことを主張したい。言語の接触と言語自身の変遷が、共通語(北京語)の構文形式の多様性を生み出す要因になっていると考える。地理的な面について言えば、北京はおおよそ西北と東南の交わる場所に位置している。今日の共

通語(北京語)の寛容さには、東南方言プレートと西北方言プレートによってプレスされた混合型の兆候が現れている。このことは文法の変遷は、必ずしも同質言語内で起こるわけではなく、そこには「構文の借用」、「構文の影響」という問題が存在しており、これまでの「単線的变化」理論の下で構築された変化のプロセスには再考の余地があることを明らかにすることができると考えている。これは特に言語類型論の分野に対して大きな貢献となることが期待される。

3. 研究の方法

目的を達成するため、平成 21 年度と平成 22 年度とも、通時的研究と地理的研究を並行して行い、理論・推測・実証の三側面から総合的にこの仮説を検証していく。歴史文法の世界では共時的に存在する地理的差異は言語の自律的な通時的変化を表していると考えられているが、本研究ではこの理論に従い、第一段階として文法形式の方言分布状況から通時的な変化を推定し、第二段階としてさらに文法形式の派生経路に関しても推定を試みる。平成 21 年度は地理的な考察によって、その言語化ストラテジ

一を推測し、更にその分布的差異・頻度・使用制限等の要素などから、その構文の歴史的推移に関する詳細な描写及び考察を行うことによって、その根底に隠されている類型論学的な情報を探ることを目指す。言語データの収集に関しては、今まで行ってきた研究を拡大し、地理的範囲を過去に調査を行った北西地域から中原地域まで広げて言語調査を行う。

4. 研究成果

①共通語（北京語）と東南方言の二重目的語構文に見られる語順の面での対立は、歴史的な累積の結果である。中古より、南と北の二重他動表現は分岐の方向をたどってきた。授与義を表現する「動詞+直接目的語+間接目的語」の構造は徐々に北方表現から消えたが、南方にはその歴史的遺産が比較的多く残っている。したがって、「動詞+直接目的語+間接目的語」は「動詞+間接目的語+直接目的語」よりさらに長い歴史的な背景を持つと言える。

②与格受取手の分布の違いについて、中国語文法界では逐次前移の結果だと考えられてきた。しかし、本研究の地理的、通時的な考察によって、東南方言、西北方言、共通語(北京語)のプロトタイプ的な授与義二重他動構文が互いに対立していることが明らかとなった。このことは中国語自身が必ずしも一次元の通時的な階層をもつものではないということを示しており、言語類型論的な価値がある。

③言語の接触と言語自身の変遷が、共通語(北京語)の構文形式の多様性を生み出す要因になっていると考えられる。地理的な面について言えば、北京はおおよそ西北と東南の交わるところに位置して

いる。今日の共通語(北京語)が独特でありながら慣用的であるという現状、すなわち動詞の直後に与格受取手を置く無標の特有の形式を持ちながら、有標の東南与格受取手後置型と西北与格受取手前置型を受け入れている共通語(北京語)の寛容さには、東南方言プレートと西北方言プレートによってプレスされた混合型の兆候が現れている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- ① 盧建、構式空缺所蘊含の句式衍生路径、『中国語学』、査読有、第 256 号、2009、141-157
- ② 張国憲、盧建、“在+处所”状态构式的事件表述和语篇功能、中国語文、査読有、第 6 卷、2010、483-495

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

盧 建 (ルウ ケン)

東京大学・大学院総合文化研究科・学術研
究員

研究者番号：80540872

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：